



愛川ふれあいの村 今月の風景

2025年12月 自然のたより

師走。お坊さんも走るほど忙しい月です。人だけではなく、生きものたちも忙しく過ごしています。冬に備えて木の實をせっせと集めるリス。日本で越冬するために長距離を移動してやって来る渡り鳥。人が気づきにくいところでも冬の準備に大忙しの生きものたちです。

今年は戦後80年の節目の年でした。80年経っても世界では争いが絶えません。国内では野生のクマの被害が多発しました。人と人、人と自然の調和や共生を考える1年になったように思います。来年は私たちにとって、生きものたちにとって、どんな1年になるのでしょうか。（石川）



イロハモミジ



今年最後の満月



恥ずかしがり屋のアオジ



マンリョウ



ガマズミ



ナンテン



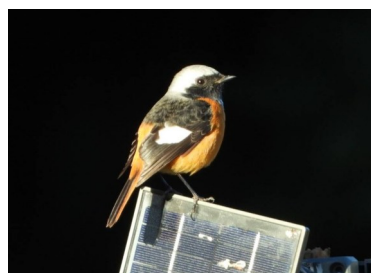
マユミ



ヒトリガの仲間



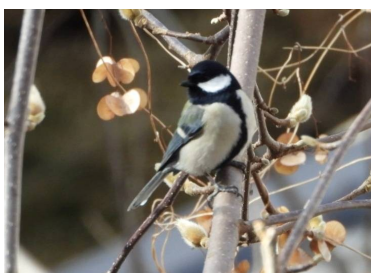
モズみ



ショウビタキみ



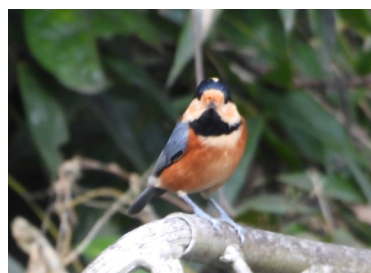
イカルの群れ



混群リーダーシジュウカラ



混群仲間エナガ



混群仲間ヤマガラ



混群仲間メジロ

トピックス ★自然界の先駆者★

冬になると地面にマツボックリが落ちているのを見かけます。村内には、アカマツやヒマラヤスギ、ドイツウヒといった、針葉樹が植えてあります。針葉樹の仲間であるアカマツは名前に「マツ」が入っているので、マツボックリができます。皆さんがイメージする、どこにでもよくあるマツボックリはアカマツまたはクロマツからできています。

ヒマラヤスギやドイツウヒの名前には「マツ」は入っていませんが、マツボックリができます。どちらも「マツ科」に属しており、「パイオニアツリー」ともいわれています。

「パイオニアツリー」とは何かというと、強い日差しや乾燥・寒さ・強風といった、厳しい自然環境に強い樹木のことを指します。

樹木は生長を続けると、葉や枝を地面に落とし、土壌に養分を与えて、他の植物が育ちやすい環境を作ります。これが『パイオニア＝先駆者』と呼ばれる理由です。

このマツボックリの種が地面に落ちることにより、マツの木が増え、樹木や他の植物が生きやすい自然環境が広くなり、さまざまな種類の植物や動物が生きられるようになります。

この時期のマツボックリは、乾燥してカサが開いているので、種子を見つけることが難しいのですが、マツボックリにもしっかりと役目があるのです。

マツがあるからこそ、さまざまな種類の樹木がある森ができるのです。マツボックリの生命力に感動です。ぜひ、マツボックリの観察をしてみてください。（大瀧）



生き物 ★群れを作る野鳥たち★

どこからかキョッキョッと鳥の声が聞こえてきます。ポプラの樹上では、十数羽のイカルが朝日を浴びています。グラウンド下の畑では、たくさんのスズメが草の種をついばんでいます。近くを通ると一斉に飛び立ちました。このように冬になると多くの鳥たちが群れを作ります。何故、鳥たちは群れを作るのでしょうか。理由は大きく2つあります。1つは、タカなどの天敵からの防御です。葉が落ちた木々は鳥たちを目立たせます。群れでいれば目の数が増えて早く敵を発見できます。もう1つは、餌の確保です。1羽が見つけた餌の情報をみんなで共有できます。餌の少ない冬は助かります。中には数種類で「混群」を作る鳥もいます。シジュウカラを中心にヤマガラ、エナガ、メジロ、コゲラなど違う種類が鳴きながら移動します。群れの中ではどんな情報交換をしているのでしょうか。（高梨）



旬 ★おせち料理★

お正月に食べるおせち料理は、12月のうちに作ります。年が明けるとすぐに年神様を迎えて、ともに食事をする「神人供食」との考えからです。また、火の神様のいる三が日は火を使わないように配慮するためでもあり、味が濃く日持ちのする料理が多いです。

おせち料理は「祝い肴」「口取り」「焼き物」「酢の物」「煮しめ（煮物）」の5種類に分けられます。その食材として、愛川ふれあいの村内でとれるものは、栗があります。栗きんとんとして甘めに味付けしますが、「勝ち栗」として縁起物であり、その色から「金運上昇」の願いが込められています。（岡本）



キチジョウソウは、キジカクシ科の多年草で山林の林床などでよく繁殖をしているのを見かける。名の由来は、今まで咲いていなかった花が、良いことがあると咲く、という伝説からだと言われている。地下茎がよく発達する特徴を考え、咲く花の気持ちになると、不思議にあちらこちらで花を見つかった。落ち葉に埋もれた花を注意深く探すことは、自然観察の基本的なことであると再認識した。（吉田）

来月の見どころ
古事を知らせる花
低地の山裾を歩くと、落ち葉の間から薄ピンク色のキチジョウソウの花が顔を出しているのを見かける。何とこんな所に珍しいなと思い、数本咲いている花の傍に寄ると、例えようもない清楚な香りがしてきた。常緑の多年草で混生する三〇八本の細長い葉がよく目立つ。花弁が反り返り六本の雄しべが良く目立って美しく咲き誇っていた。花期は八月〜十月頃であるが、今年は暑い夏が続いた気象や気候変動の影響なのか、いまだに美しく咲いている。